

東地区公共交通再編に関する中間報告書

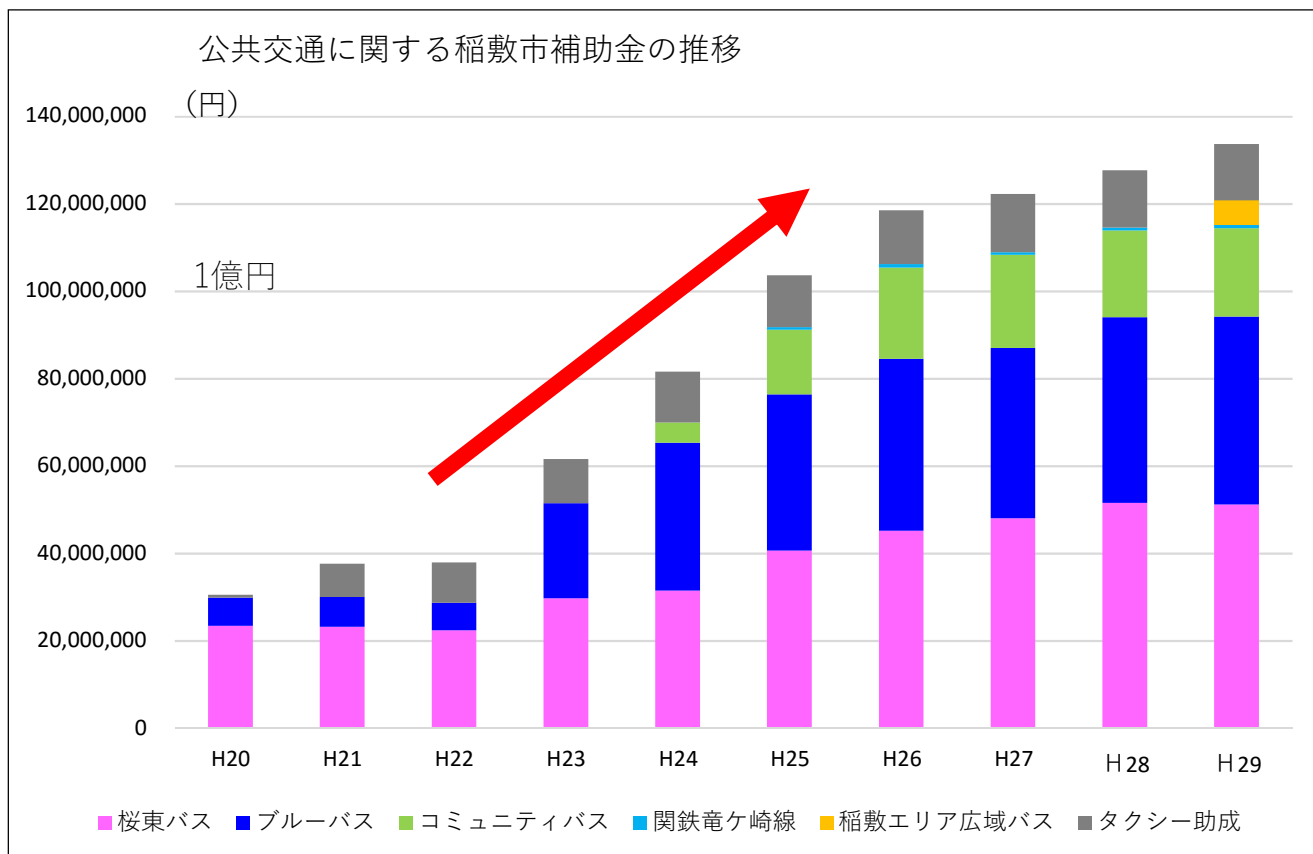
平成31年3月
稲敷市 政策企画課

東地区の公共交通再編について

なぜ再編が必要なのか

路線バスは利用者が減少し、赤字が拡大しています。路線存続のため税金で赤字を補っていますが、昨年度は1億3000万円を超える額になりました。

需要が無い路線を再編し、予算に余裕を持つことで、住宅地を細かく走るワゴン車交通の導入が可能になります。




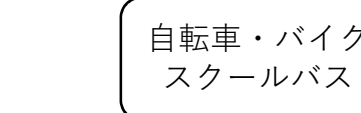


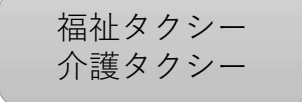
江戸崎～佐原線の現状

- ・ 年間利用人数は約6万人です。
- ・ 佐原方面、江戸崎方面への高校通学、買物、通院に多く利用されています。
- ・ 西代地区への買物利用もあります。
- ・ 運賃を値下げした影響で、赤字が拡大しています。
- ・ 存続のためには、適正運賃の検討が必要です。

十余島線の現状

- ・ 年間利用人数は約5千人です。
- ・ 人口減少やスクールバス化により利用者が減少しています。
- ・ 現在は、西代・脇川地区の小学生が主な利用者です。
- ・ 小学生以外の利用者は、1日2名程度です。
- ・ 小学生が他の移動手段へ変更できれば、ワゴン車へ変更可能です。
- ・ ワゴン車であれば、住宅地を細かく回ることも可能となります。

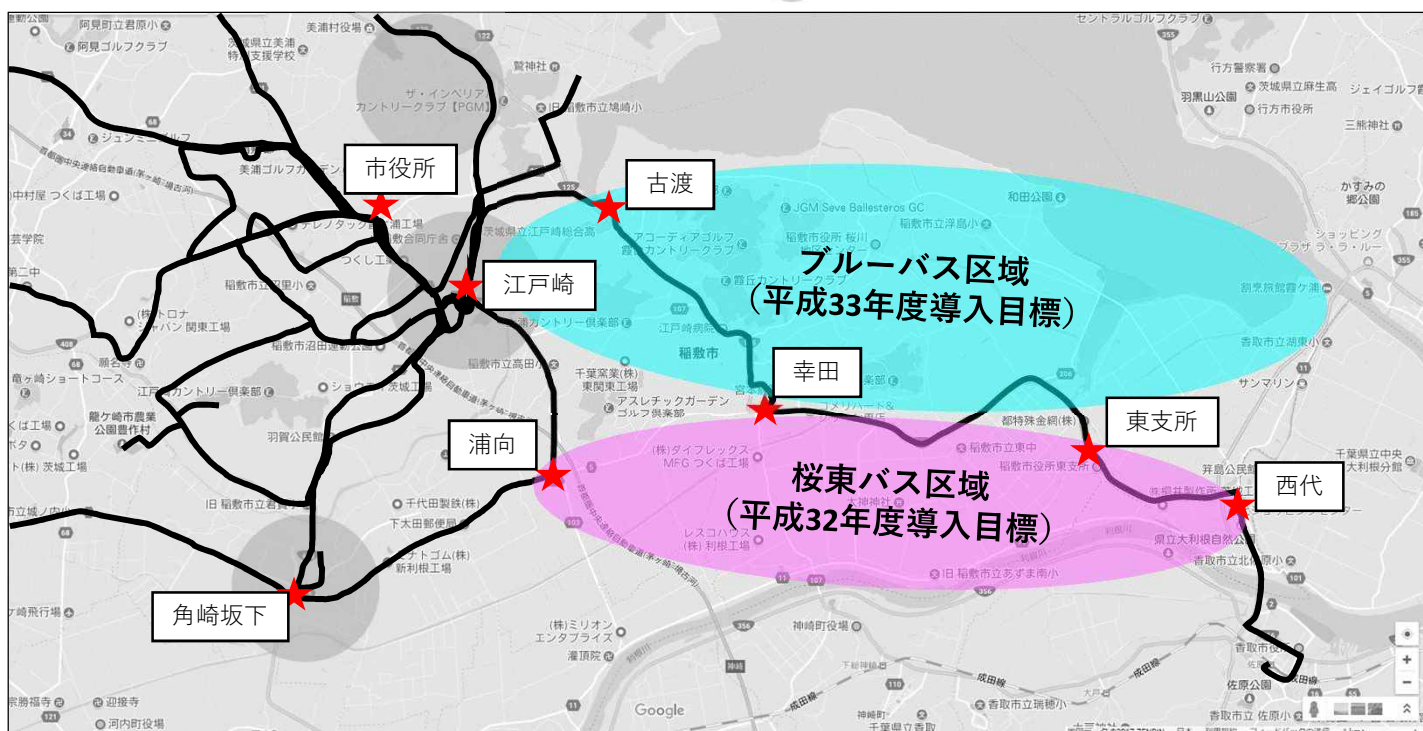
公共交通のニーズと対応範囲

利用者	ニーズ	対応範囲
小学生	<ul style="list-style-type: none"> 安全な通学手段 行事や荒天時の登下校対応 	 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">路線バス</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">新しいワゴン車交通</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">タクシー</div> </div>
高校生	<ul style="list-style-type: none"> 志望校への通学手段 速達性 バス停が遠くても、自転車で移動可 	
一般	<ul style="list-style-type: none"> 基本的にはマイカーを利用 運転できない場合のセーフティネット 	
高齢者	<ul style="list-style-type: none"> 地域の集会所までなら歩ける 通院、買物の交通手段が必要 	
歩行に介助が必要な方	<ul style="list-style-type: none"> 家の前まで来てほしい 乗り降りを手伝ってほしい 	

ワゴン車交通の導入検討区域

★ 交通結節点

● タクシー営業所から半径2kmの範囲



平成30年度の取組みについて

平成30年5月22日	第1回 稲敷市地域公共交通会議 再編に関する取組み方法等を協議しました。 東地区の再編について、関係交通事業者9者に改善案の募集をしました。
平成30年7月18日	新交通システム導入検討分科会 稲敷市の公共交通の現状と東地区再編について市役所から説明し、住民アンケートの実施について協力をお願いしました。 先の募集に基づき、桜東バスより神崎行き路線バスの提案がありました。
平成30年8月	東地区住民アンケート 全世帯の高校生以上を対象にアンケートを実施しました。 回答率は15.2%でした。
平成30年10月	新交通システム導入検討分科会 住民アンケートの結果について市役所から報告した後、桜東バス神崎線（仮称）の実施可否、ワゴン車交通の運行形態について意見交換を実施しました。 神崎線は高校生が主な利用者になることから、あらたに高校生になる中学生の意見を聞くこととなりました。 高齢者向けのワゴン車交通は、独居老人などの困りごとに詳しい民生委員の意見を聞くこととなりました。
平成30年12月	東中学校アンケート 全生徒を対象にアンケートを実施しました。回答率は42.4%でした。 桜東バス神崎線が実現した場合利用するかどうかの質問に対して22名が「毎日利用すると思う」と回答しました。
平成30年12月6日	東地区 民生委員役員会 桜東バス神崎線とワゴン車交通の運行について意見交換を行いました。
平成31年1月25日	第2回 稲敷市地域公共交通会議 1年間の取組み内容を報告し、今後の進め方について協議しました。

地域公共交通会議とは

稲敷市の公共交通について、法に基づいた決定を行う機関です。
区長会長や商工会長など地域住民の代表者8名、バス、タクシーの運行事業者及びその労働組合や団体組織の代表者12名、国県市の関係組織の代表者14名、大学教授などの有識者2名、合計36名で構成されています。

新交通システム導入検討分科会とは

東地区の公共交通の在り方について意見交換を行う組織です。
東地区の正副区長や、PTA会長などの住民代表と、交通事業者、福祉輸送事業者、市役所政策企画課で構成されています。

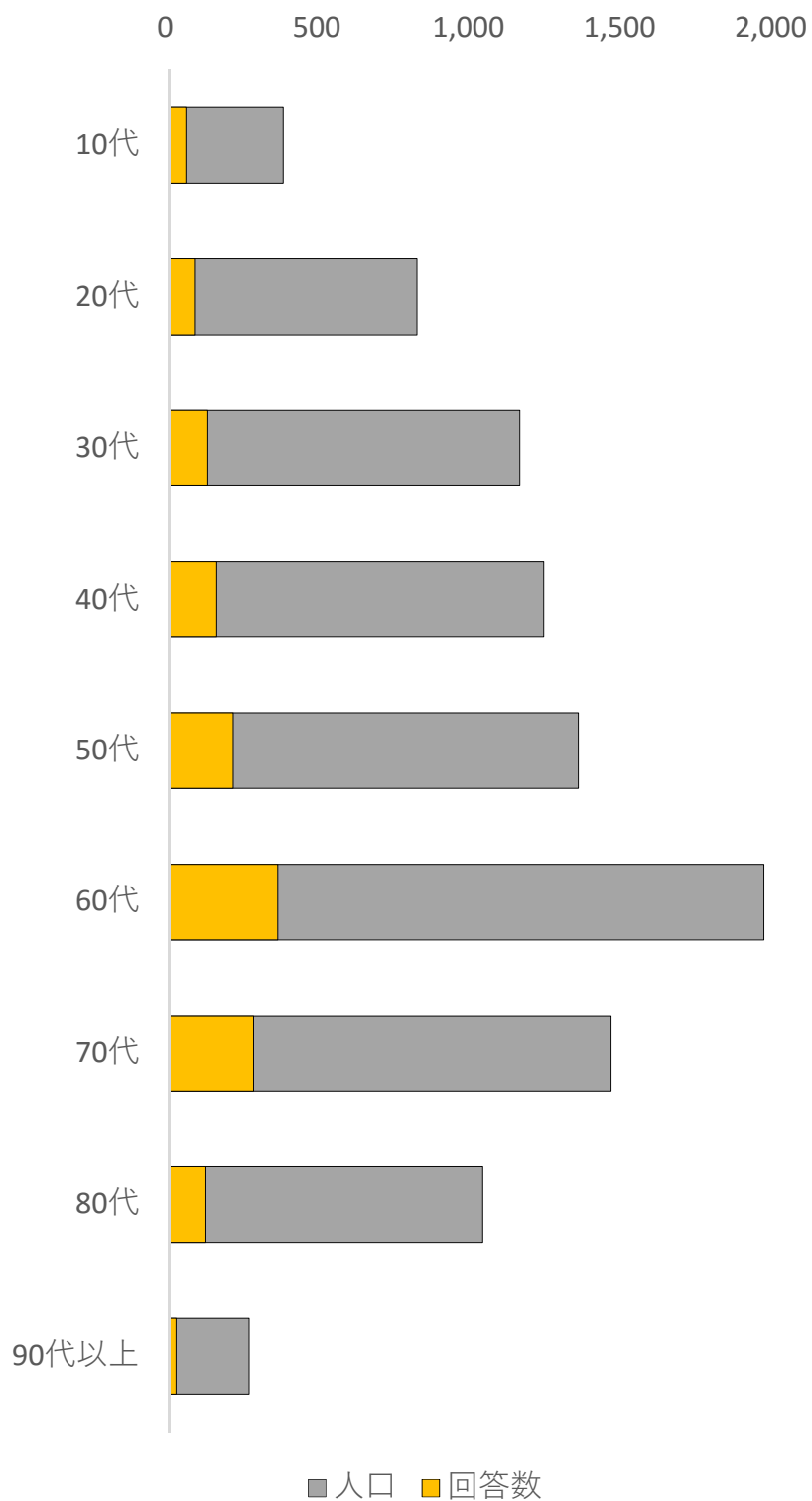
東地区住民アンケートの結果

調査期間：平成30年8月9日～24日

年齢別の回答数・回答率

高校生と50～70代が回答率が高く、公共交通への関心が高いと考えられます。20～40代と80代以上は回答率が低い結果となりました。

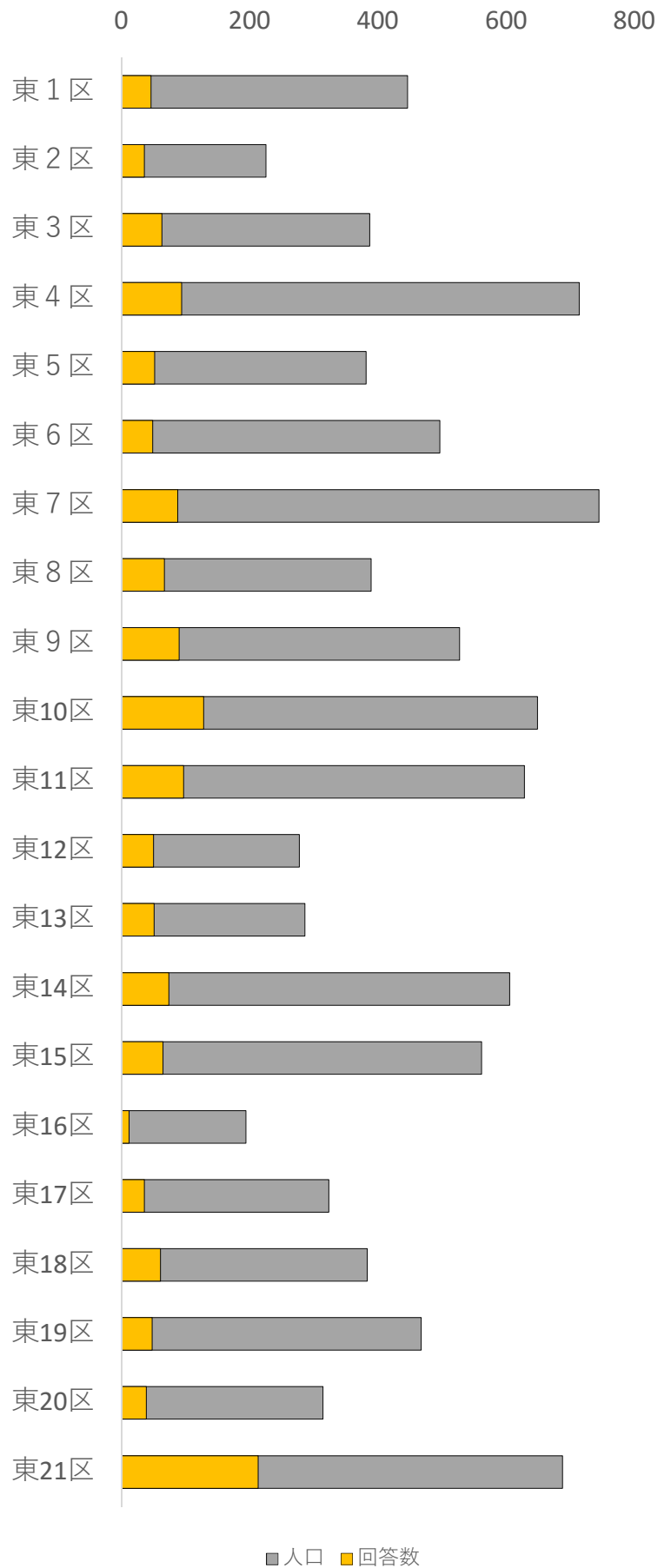
年齢	人口	回答数	回答率
10代 高校生以上	376	55	14.6%
20代	817	83	10.2%
30代	1,157	127	11.0%
40代	1,236	156	12.6%
50代	1,350	211	15.6%
60代	1,990	358	18.2%
70代	1,458	278	19.1%
80代	1,034	121	11.7%
90代以上	263	22	8.4%
無回答		60	
合計	9,681	1,471	15.2%



地区別の回答数・回答率

地区によって公共交通への関心にばらつきがあります。

地区	人口	回答数	回答率
東1区	446	46	10.3%
東2区	225	36	16.0%
東3区	387	63	16.3%
東4区	713	94	13.2%
東5区	381	52	13.6%
東6区	496	49	9.9%
東7区	744	88	11.8%
東8区	389	67	17.2%
東9区	527	90	17.1%
東10区	648	128	19.8%
東11区	628	97	15.4%
東12区	277	50	18.1%
東13区	286	51	17.8%
東14区	605	74	12.2%
東15区	561	65	11.6%
東16区	194	12	6.2%
東17区	323	36	11.1%
東18区	383	61	15.9%
東19区	467	48	10.3%
東20区	314	39	12.4%
東21区	687	213	31.0%
無回答		12	
合計	9681	1471	15.2%



目的別・行先別の公共交通需要

東地区で公共交通のニーズが大きいのは、「江戸崎」「西代」「佐原」の買物目的と、「佐原」「神崎」の通学目的です。

買物目的は、平日・休日ともにニーズがありますが、通学は休日のニーズがありません。

江戸崎、西代、佐原方面は、桜東バスが運行しており理にかなっています。神崎方面へは、このアンケート結果をもとに具体案を検討しています。

平日

(年間需要)

	公共交通が必要な行先							
	江戸崎	新利根	幸田	西代	上之島	佐原	神崎	その他
通勤	2,836	1,232	1,519	3,005	0	3,434	1,678	3,826
通学	2,477	0	0	1,053	516	4,025	4,678	3,684
買物	6,941	362	252	6,106	0	6,633	1,305	3,125
通院	2,805	104	233	1,582	103	3,370	1,328	1,454
趣味	1,469	0	0	497	0	1,410	78	1,942
手続き	2,939	201	252	2,039	48	2,827	442	588
その他	103	0	0	103	0	667	48	173
合計	19,570	1,898	2,256	14,386	667	22,366	9,557	14,791

休日

(年間需要)

	公共交通が必要な行先							
	江戸崎	新利根	幸田	西代	上之島	佐原	神崎	その他
通勤	266	122	329	363	0	686	206	714
通学	461	0	0	59	0	619	369	667
買物	2,140	363	84	1,446	0	2,412	610	573
通院	897	293	0	657	0	1,011	185	249
趣味	320	0	0	181	0	600	34	588
手続き	14	0	0	14	0	12	4	12
その他	0	0	0	0	0	151	0	48
合計	4,098	779	413	2,721	0	5,491	1,408	2,851

地区別・行先別の公共交通需要（平日）

地区ごとに公共交通のニーズを集計し、色分けしました。
次ページに地図上でわかりやすく表しました。

年2000回以上
(1日4人以上)

年1000回以上
(1日2人以上)

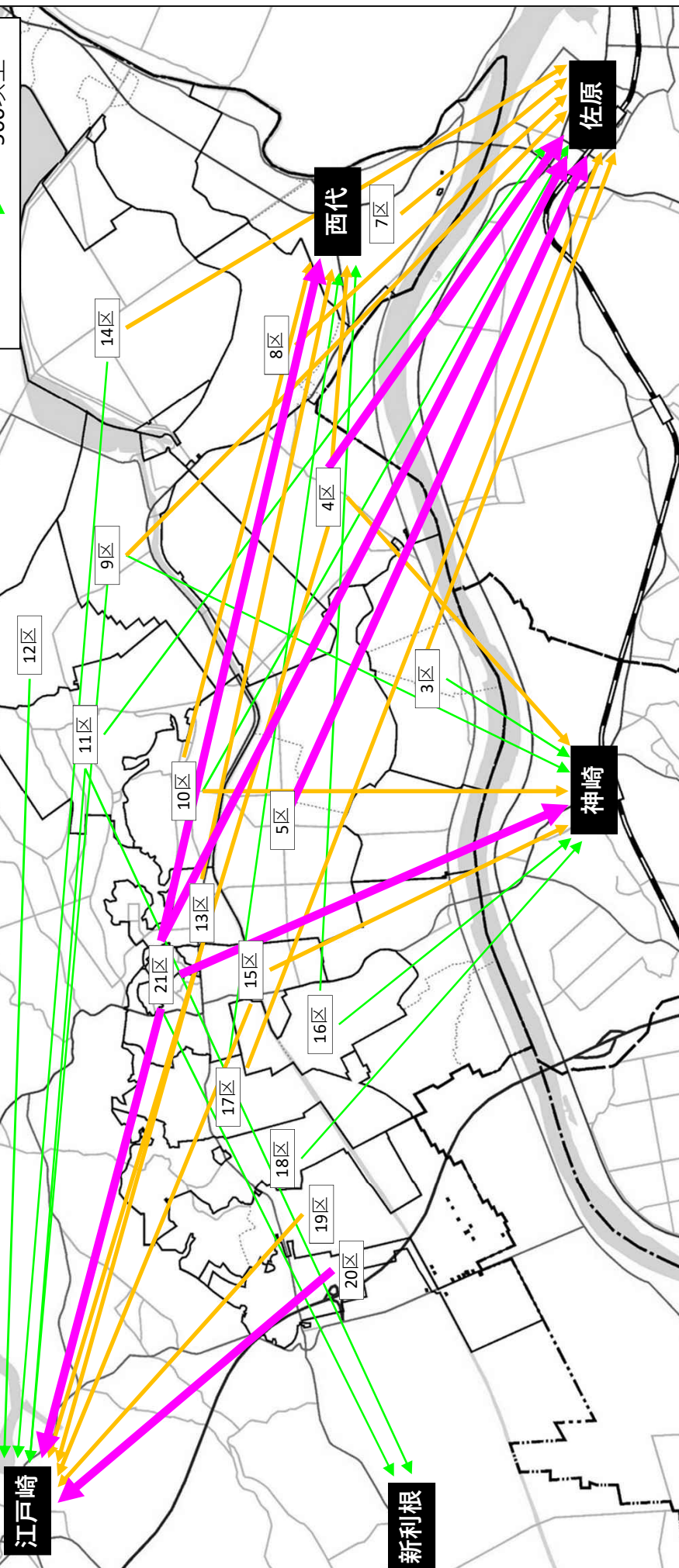
年500回以上
(1日1人以上)

	江戸崎	新利根	西代	佐原	神崎	その他	合計
東1区	310	0	0	230	24	0	588
東2区	0	0	24	334	382	0	763
東3区	0	0	206	1,262	770	2,494	4,733
東4区	1,754	0	1,819	4,558	1,032	1,548	10,711
東5区	103	0	0	2,914	0	0	3,533
東6区	0	0	103	0	0	206	310
東7区	230	0	206	1,097	0	0	1,534
東8区	413	0	310	1,874	0	0	2,597
東9区	929	0	437	1,207	516	516	4,121
東10区	326	0	1,699	850	1,891	1,010	6,523
東11区	581	588	271	684	24	199	2,450
東12区	516	0	0	0	0	0	516
東13区	1,080	0	1,906	230	0	540	4,375
東14区	516	0	96	1,145	0	619	2,424
東15区	1,651	103	103	358	1,802	72	4,090
東16区	0	0	619	0	540	0	1,159
東17区	0	0	516	1,032	0	48	1,596
東18区	271	24	0	24	516	24	859
東19区	1,754	206	413	206	0	1,747	4,351
東20区	3,223	127	358	103	0	953	4,812
東21区	5,911	850	5,299	4,258	2,059	4,814	23,446
合計	19,570	1,898	14,386	22,366	9,557	14,791	85,490

アンケート調査による移動のニーズ

【凡例 (年間需要)】

- 2000以上
- 1000以上
- 500以上



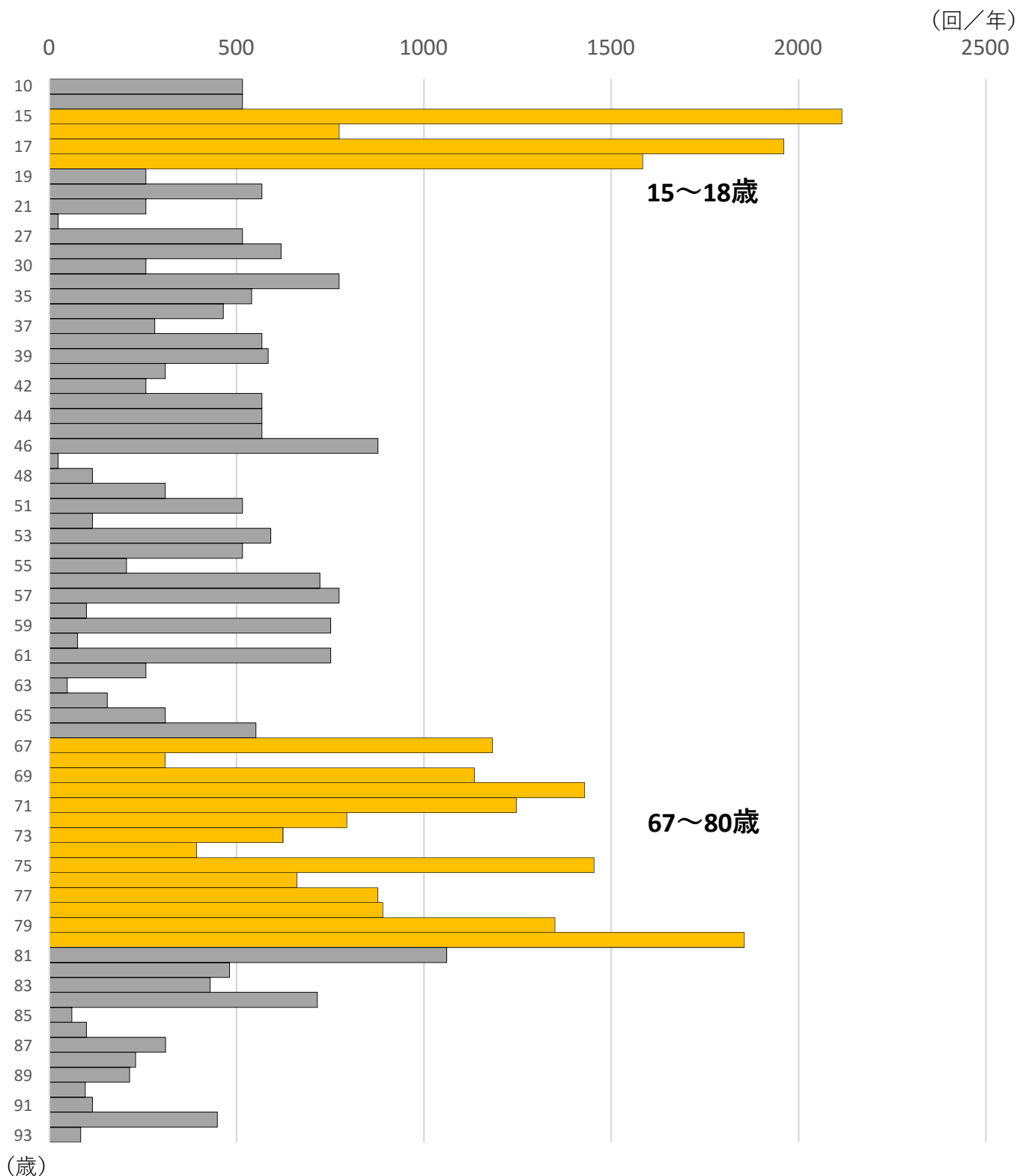
大半は桜東バス（江戸崎～佐原線）に重なるニーズです。大須賀地区を中心に、神崎方面へニーズがあることがわかりました。

年齢別の公共交通需要

公共交通を必要としているのは「15～18歳（高校生）」と「67～80歳（比較的若い高齢者）」だとわかりました。

仕事世代や、80歳以上の高齢者のニーズは多くありません。

公共交通は、高校生と70代前後の高齢者の意見を中心に考えていく必要があることが改めて明らかになりました。

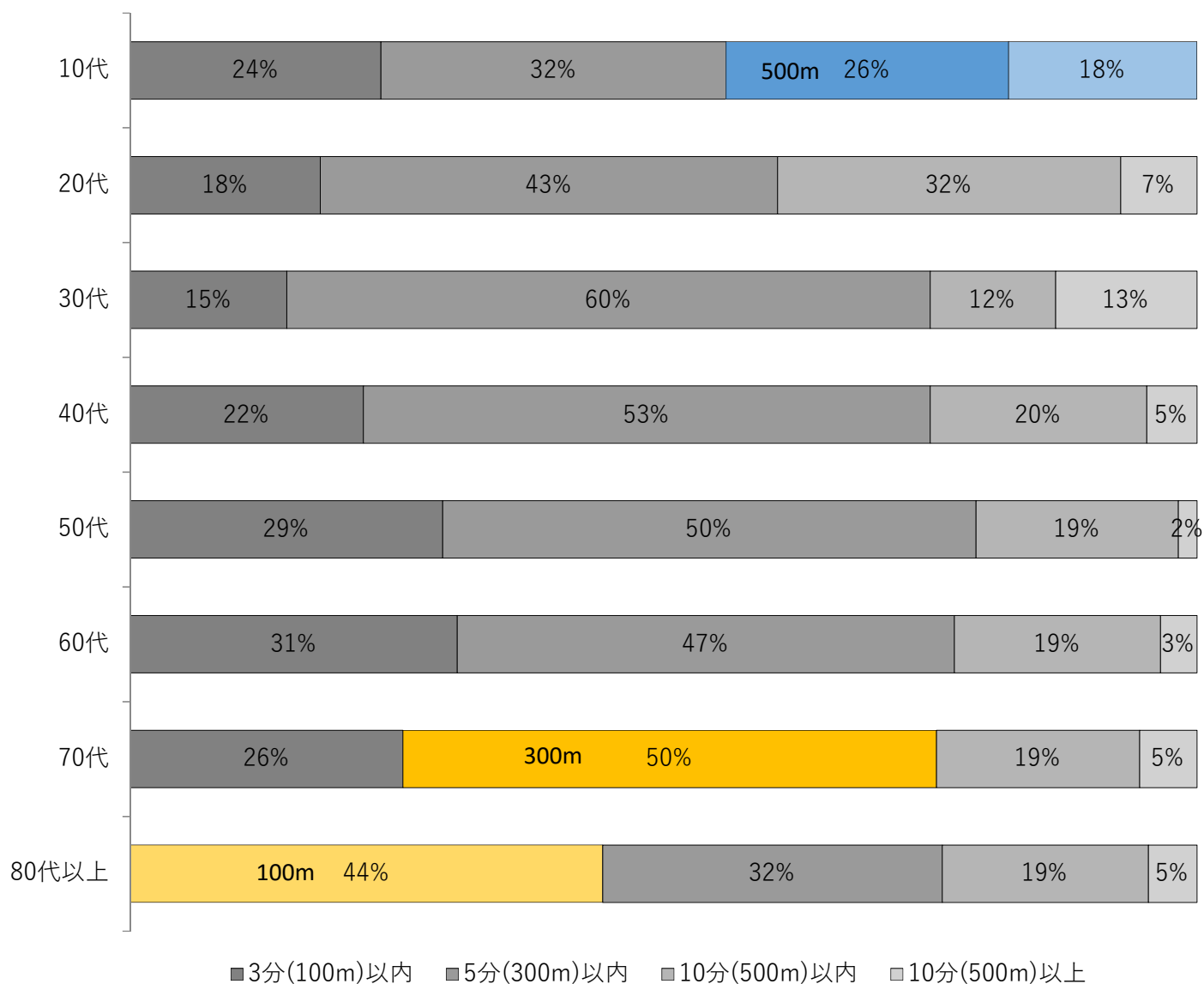


我慢できるバス停の距離

10代（高校生）は「500m以内」「500m以上」の回答が比較的多くあります。これは自転車を使ったり送迎してもらうためだと考えられます。

高齢者は300m以内を希望していることがわかりました。

80代以上は、100m以内を希望する人が増え、公共交通を使うことが体力的に難しくなる年代だと考えられます。



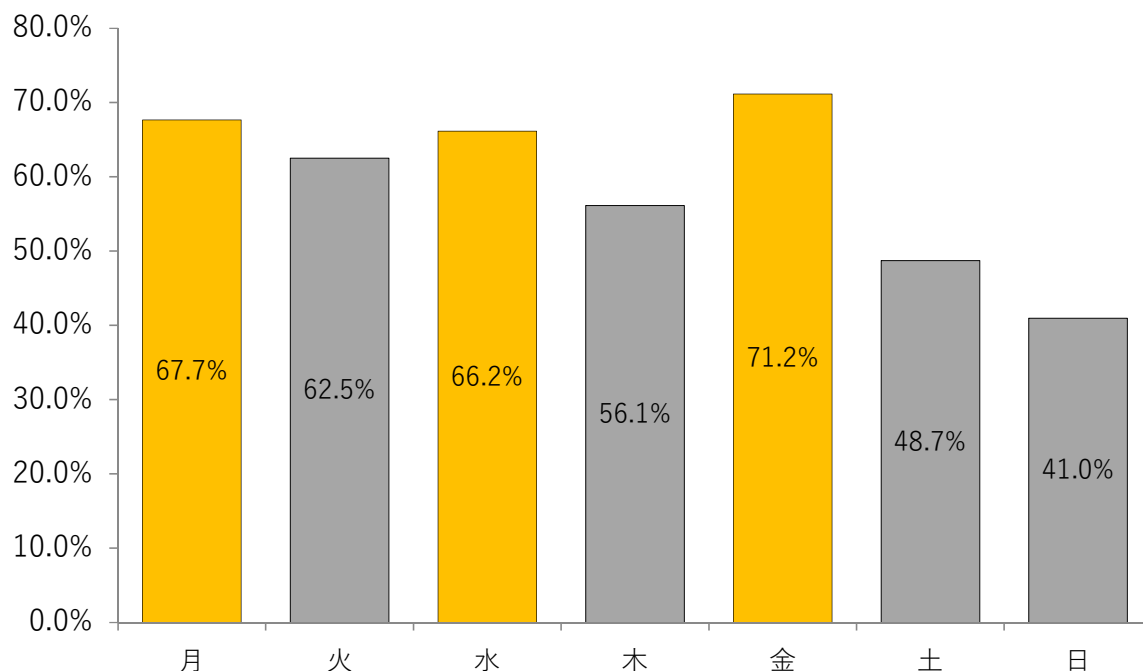
公共交通が必要な曜日

曜日により、ニーズに差があることがわかりました。

ニーズが多いのは、月・水・金です。

土日は学校が休み、家族が送迎してくれるなどの理由でニーズがありません。

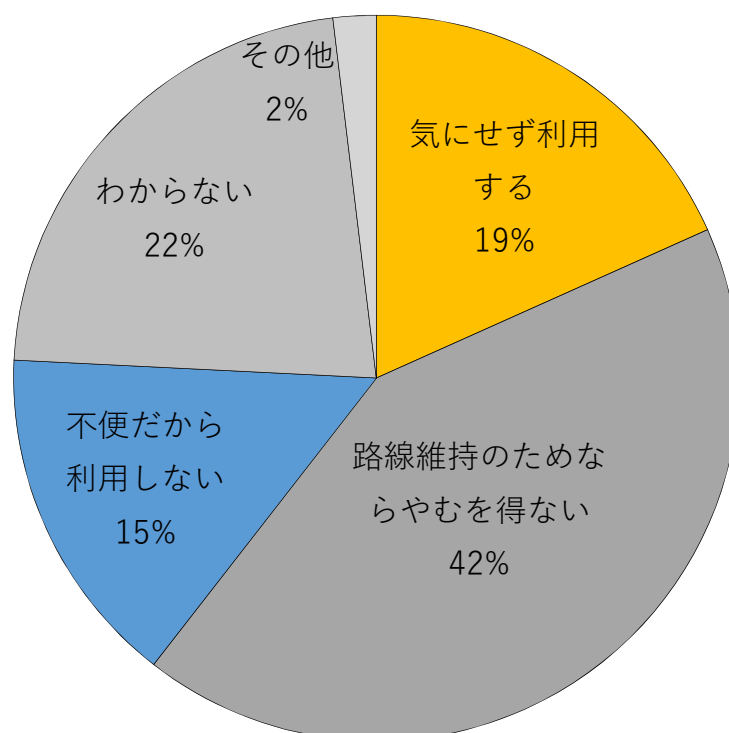
木曜日は医療機関が休診のためニーズが少ないと考えられます。



事前予約制（デマンド運行）について

必要な時に、事前予約して利用するデマンド型の公共交通については、賛否両方の意見が同程度ありました。

4割の人はやむを得ないという意見でした。

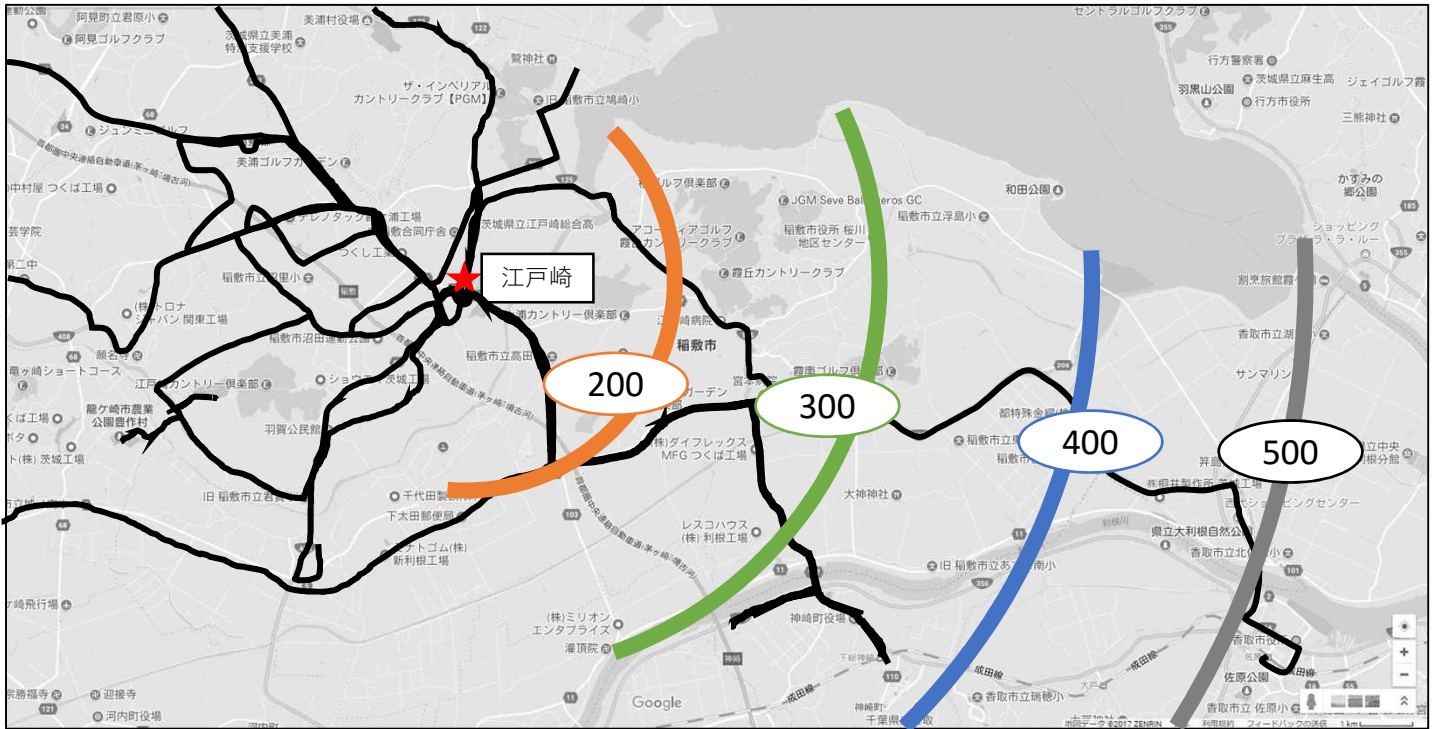


我慢できる運賃

我慢できる運賃は、距離が遠いほど上がる傾向になりました。
現在の桜東バスの運賃より2倍程度の金額でも我慢できるという意見が多く寄せられました。
すぐに値上げするわけではありませんが、公共交通の維持確保のため、参考にさせていただきます。

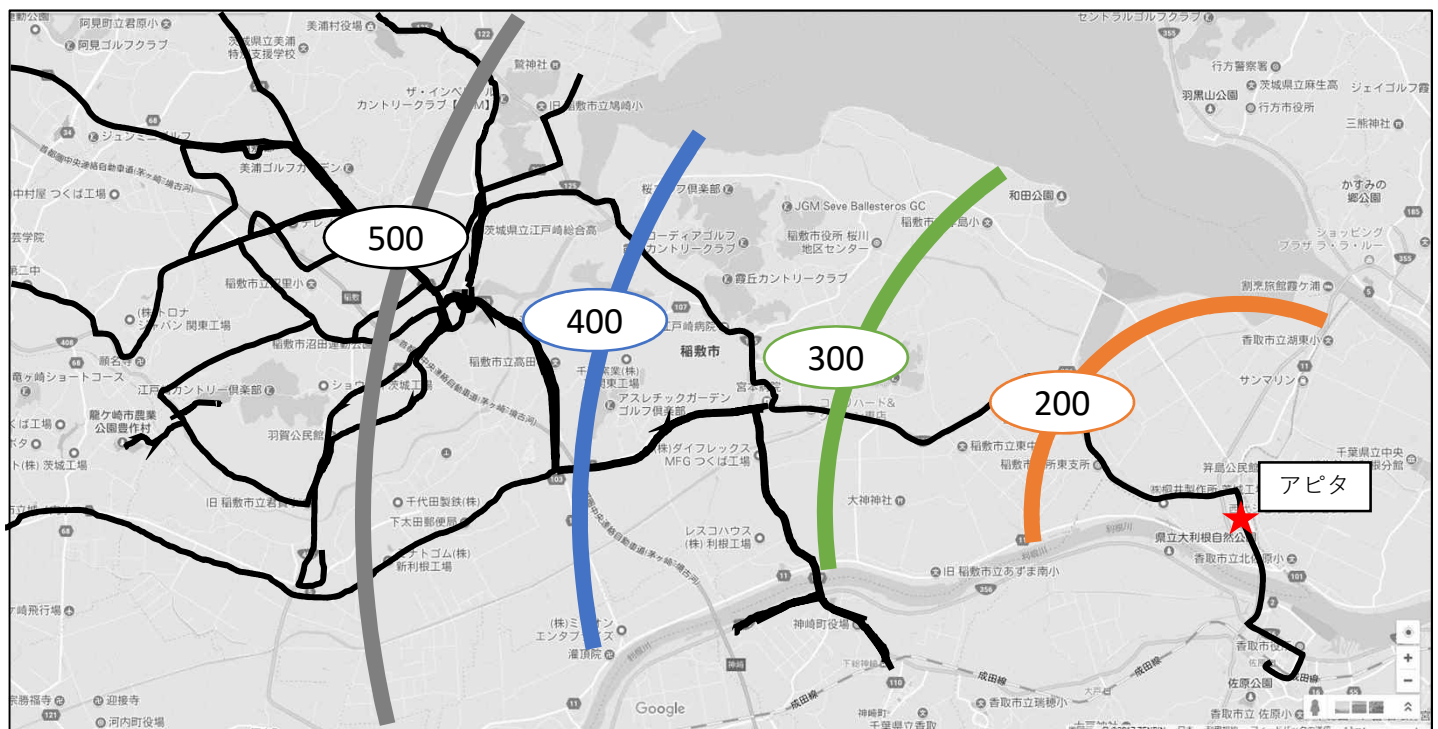
自宅から江戸崎へ行く場合の運賃

イメージ図



自宅からアピタ・パルナへ行く場合の運賃

イメージ図



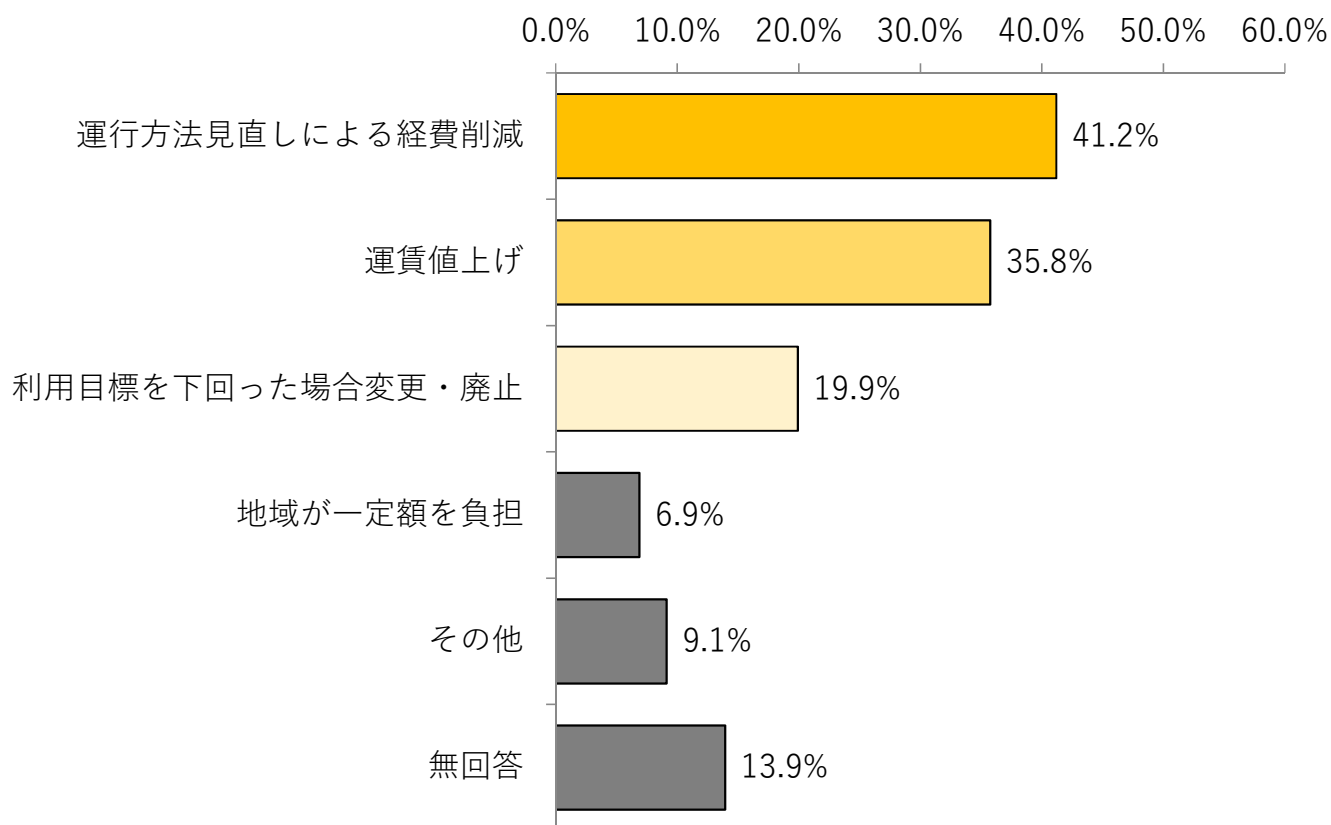
佐原線などの路線の維持に有効な対策

対策として希望するのは、回答が多い順に

- ① 減便や土日運休などの運行方法の見直しにより経費を削減する
- ② JRバスや関鉄バスと同じくらいの運賃に値上げする
- ③ 事前に利用目標を設定し、下回った場合には再編や廃止を検討するという結果になりました。

前ページ（我慢できる運賃）の結果も踏まえて、

- ① 不便になり過ぎない減便
 - ② 利用者の負担になり過ぎない値上げ
- なども選択肢として、今後の路線維持を検討していきます。

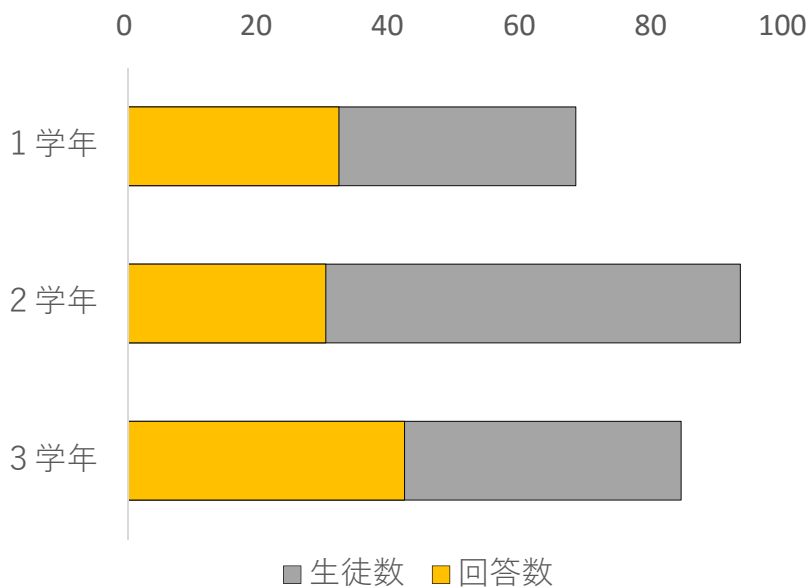


東中学校アンケートの結果

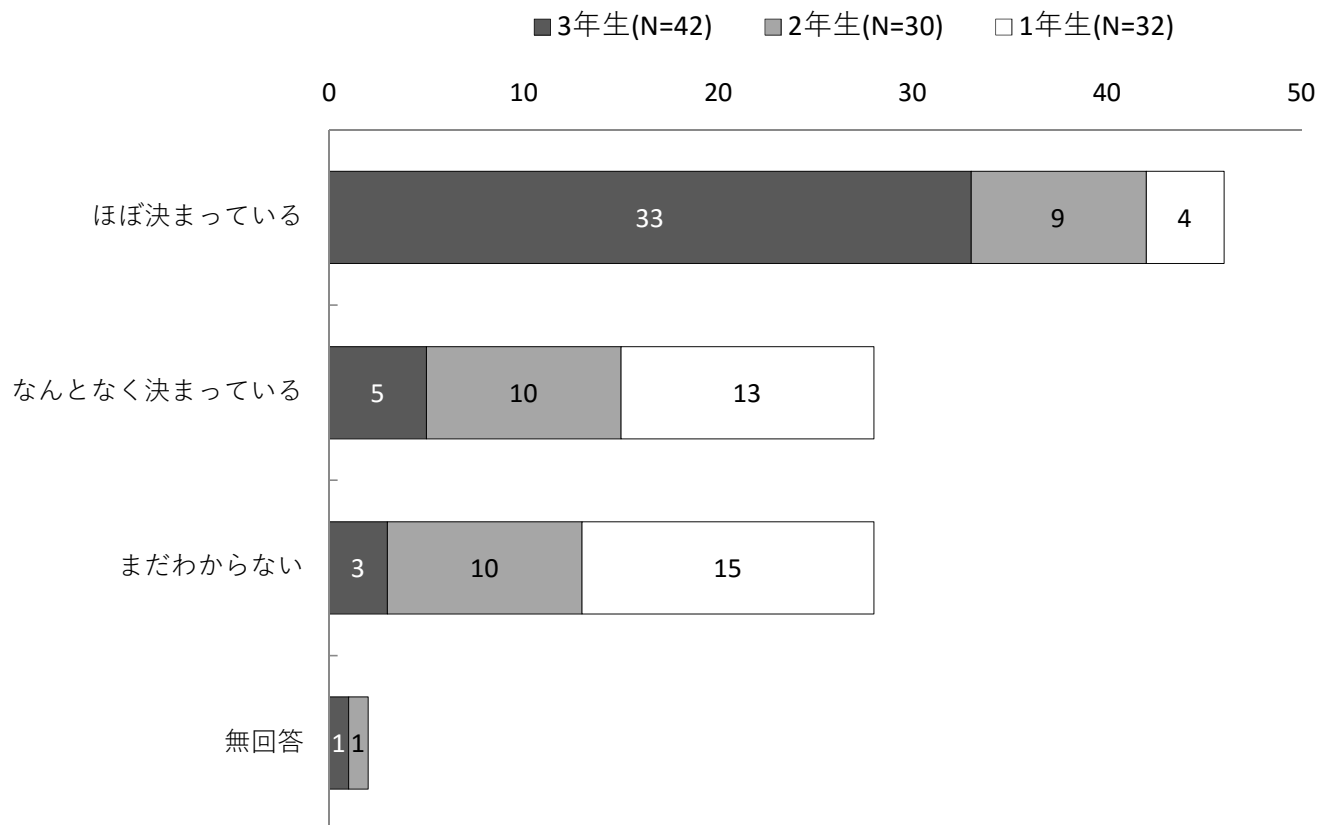
調査期間：平成30年12月6日～11日

学年別の回答数・回答率

学年	生徒	回答数	回答率
1年生	68	32	47.6%
2年生	93	30	32.3%
3年生	84	42	50.0%
合計	245	104	42.4%



志望校の決まり具合



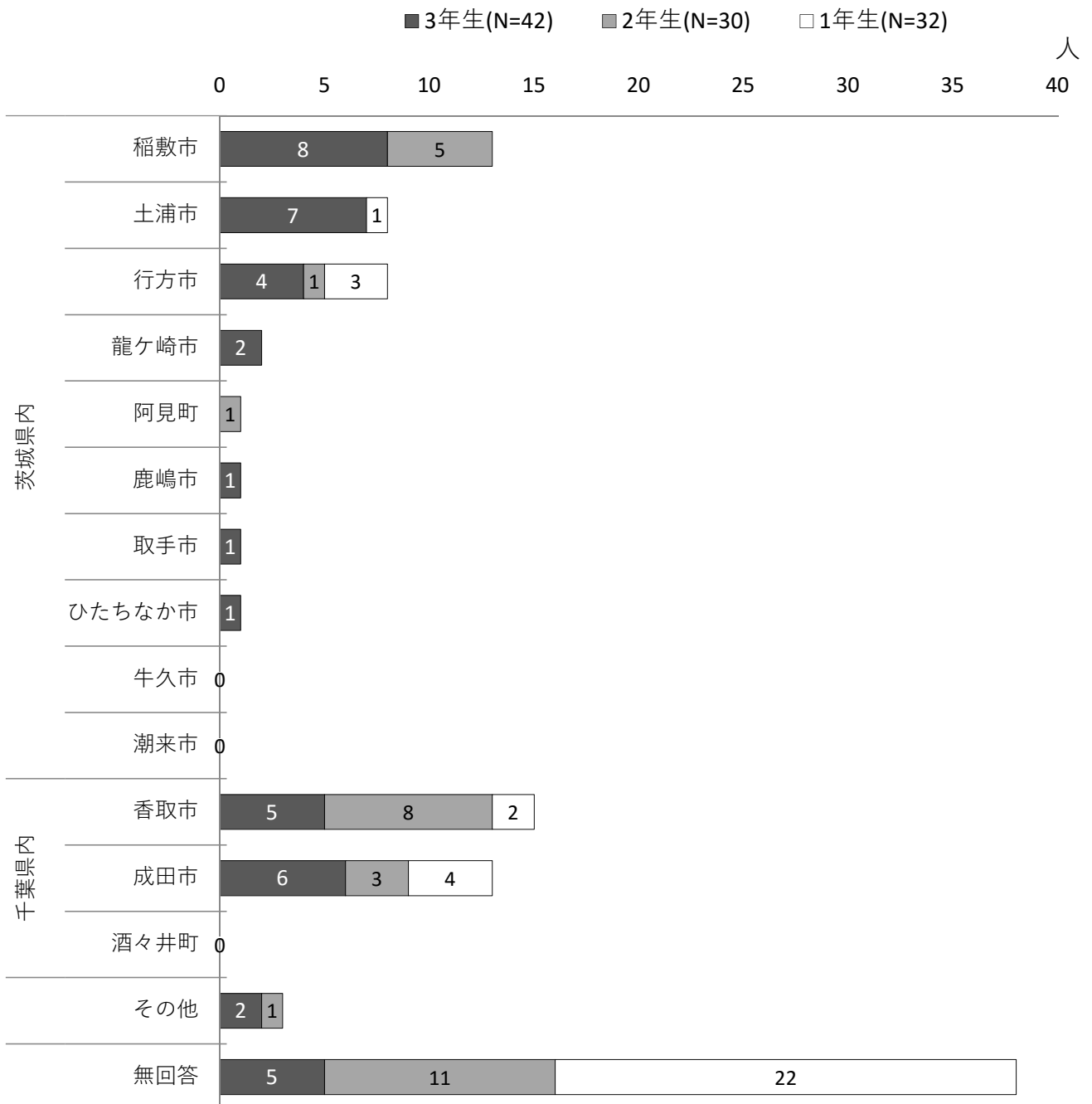
志望校の所在地

東地区から進学する希望は、多い順に

①香取市、②成田市、③稲敷市
という結果になりました。

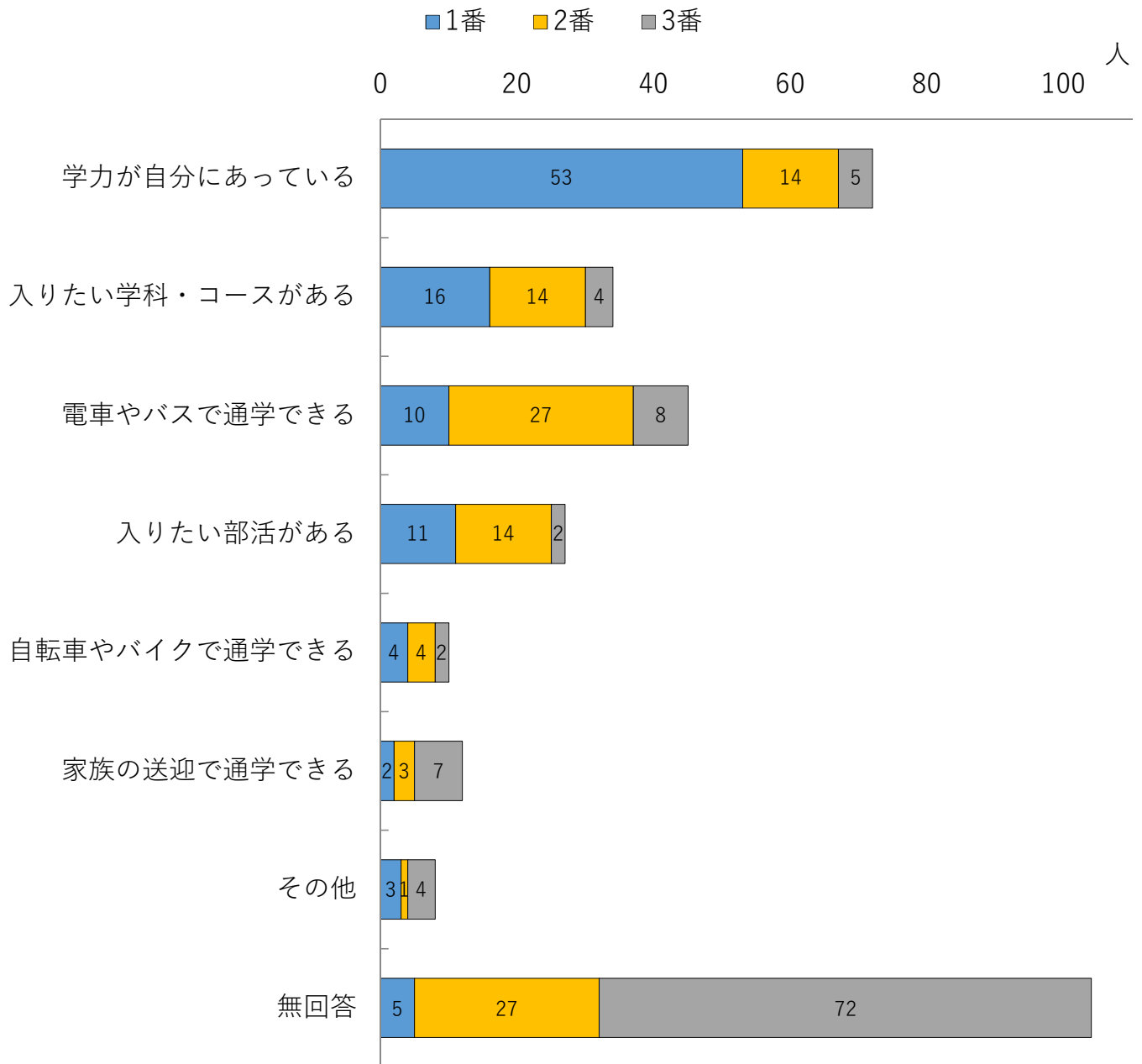
進路が概ね決まっている3年生のみでは、

①稲敷市、②土浦市、③成田市、④香取市、⑤行方市
という結果でした。



志望校の決定に重視すること

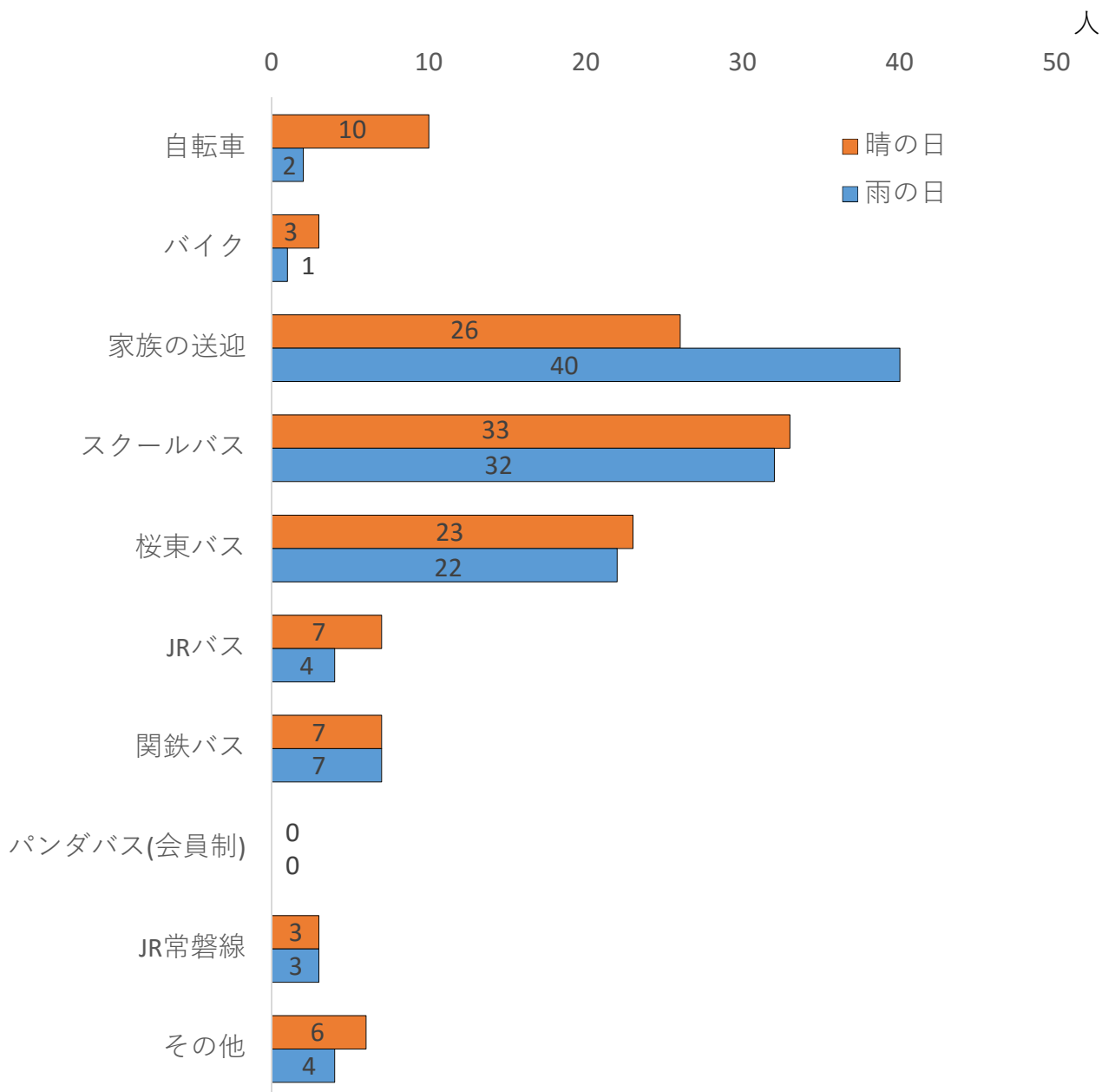
志望校を決める際に、1番重視することは「学力」
2番目が「通学手段」であることが分かりました。



茨城県の高校へ通学する場合の通学手段

多い順に、「家族の送迎」「スクールバス」「桜東バス」という結果になりました。この中には、家族の送迎でバス停まで行き、スクールバスや路線バスに乗り換えるという回答も含まれます。

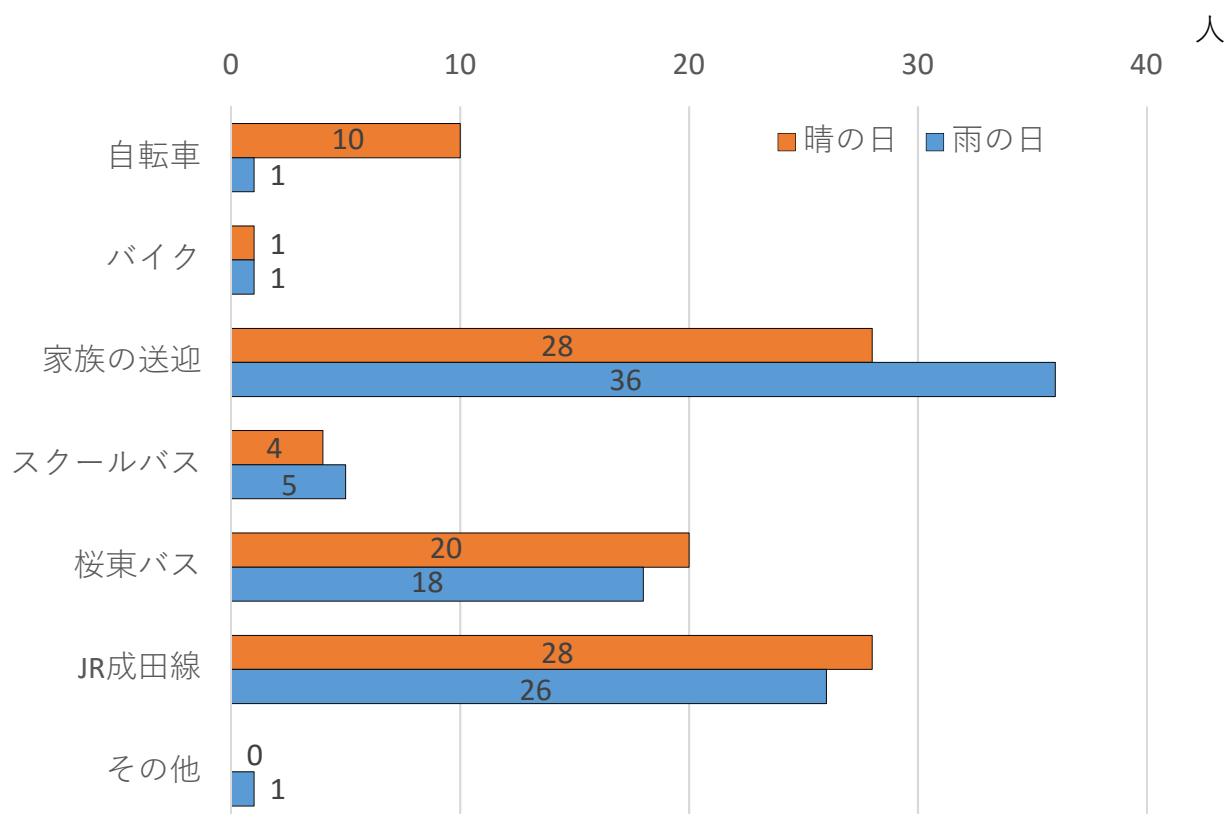
雨の日は路線バスの利用が増えると予想しましたが、路線バスは減少し、家族の送迎が増加する結果になりました。



千葉県の高校へ通学する場合の通学手段

多い順に、「家族の送迎」「JR成田線」「桜東バス」という結果になりました。この中には家族の送迎で駅やバス停まで行き、電車やバスに乗り換えるという回答も含まれます。

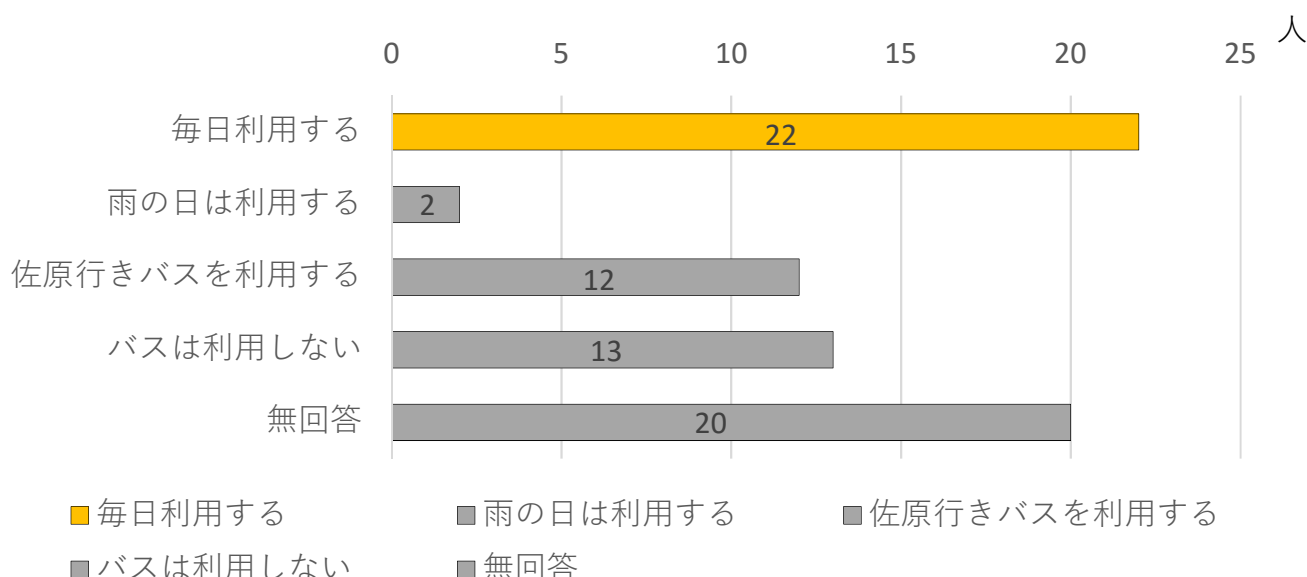
茨城県と同様に、雨の日は電車・路線バスの利用が減り、家族の送迎が増加する結果になりました。



下総神崎駅へ行く路線バスが実現した場合

22人が毎日利用すると回答しました。

実際に利用した場合は、22人 × 往復 × 200日 = 年間8,800人となります。



今後の再編の方向性

～利便性と持続性の両立に向けて～

桜東バス十余島線（あずま西小～西代）の廃止

利用が低迷している十余島線を来年3月末をもって廃止する予定です。
現在利用している小学生（西代・脇川地区）の通学方法について協議を進めていきます。

桜東バス神崎線（仮称）の実施に向けて

交通事業者から提案のあった桜東バス神崎線（仮称）は、アンケート結果から一定の利用が見込まれるため、実施に向けて調整していきます。

乗入れ先の神崎町や関係者との協議に時間を要するため、来年4月運行開始を目途とします。

一方で、市の財源には限りがあるため、【存続の目安】を下回る場合には、再編や廃止を検討します。

【存続の目安】

- ① 1便あたり2.4人以上の利用があること
- ② 運賃収入で経費の30%以上をまかなうこと

【利用者像】

- ・ 下総神崎駅から電車を利用する学生、社会人
- ・ 江戸崎総合高校へ通学する高校生
- ・ 江戸崎地区、神崎町へ買物や通院に行く交通弱者の方など

ワゴン車交通（新交通システム）の実施に向けて

バス停が遠くて利用できない交通弱者の方向けに集落内を走るワゴン車交通を検討しています。

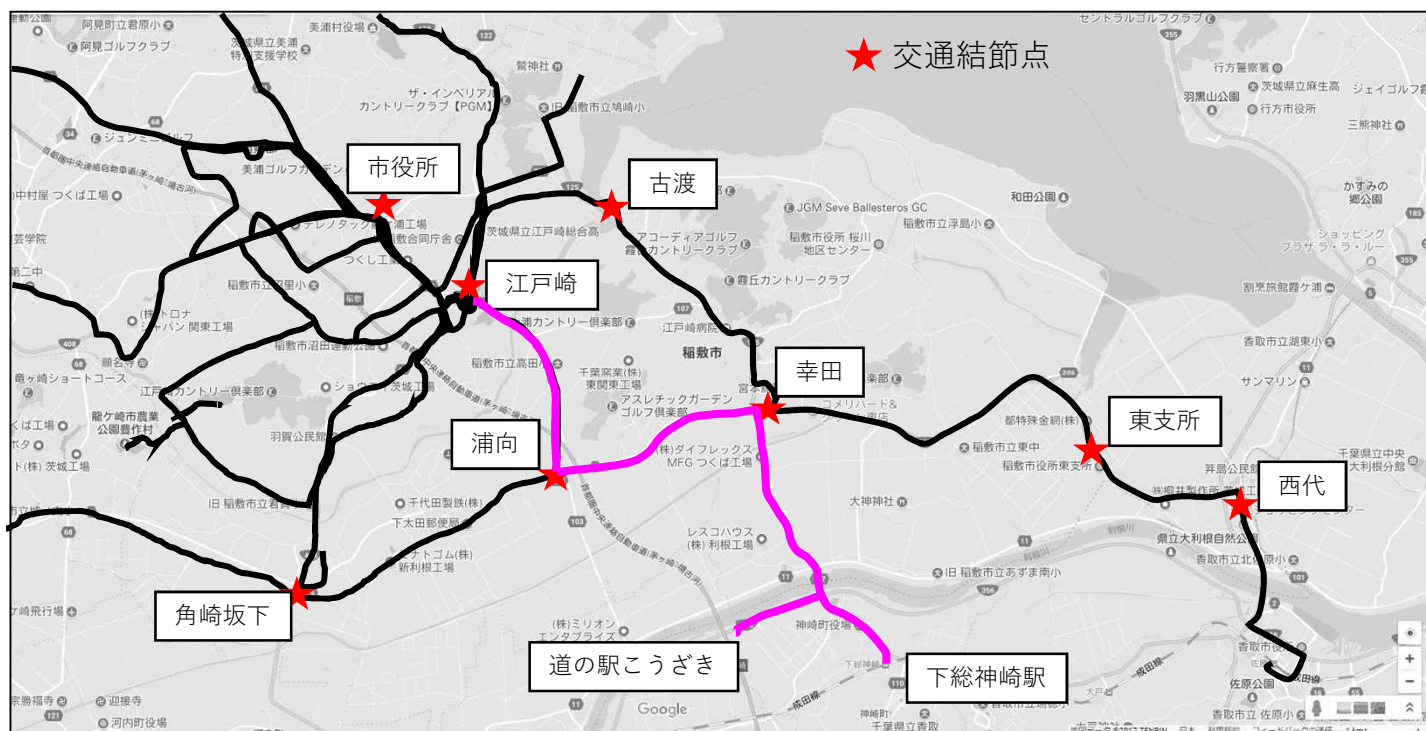
具体的なルート、乗降場所、ダイヤなどは、実際に必要としている交通弱者の方々と意見交換をしながら決めていきます。

来年4月運行開始を目途とします。

【ルートなどの考え方】

- ・ 東地区内のみを走行します。
- ・ 曜日ごとに緑色ルート、黄色ルートなどと分けることを検討しています。
- ・ 江戸崎、佐原方面へは、「幸田車庫」「東支所」「パルナ」などでバスへ乗換しやすいように検討します。

桜東バス神崎線（仮称）の路線案



ワゴン車交通とバスの結節イメージ

